

## はじめに

長生地域の農林業は、温暖な気候や平坦な土地条件などの恵まれた自然環境の下、生産者の皆様方の高い技術と意欲に支えられ、また、首都圏に位置するという地理的有利性を活かして発展してまいりました。野菜や米を基幹に、平成27年農業産出額（推計）は141億1千万円に上ります。

しかしながら、農林業を取り巻く情勢は、近年大きく変化してきており、平成30年産米から国による生産数量目標等の設定、公表が行われなくなるほか、環太平洋パートナーシップ協定（TPP）の交渉進展をはじめとした経済の国際化に基づく農林産物の輸出入の自由化や、ライフスタイルの変化に伴う食と流通の変化など、対処すべき課題が山積しています。

県では、平成29年10月に、新しい総合計画である「次世代への飛躍輝け！ちば元気プラン」を策定し、「豊かな生活を支える食と緑づくり」として農林水産業における産地づくりや担い手の育成・確保、農山漁村の活性化などを位置付けました。

また、この計画を実現するための具体的な取組を「千葉県農林水産業振興計画」において示し、産業振興と地域振興を大きな柱として各種の施策に取り組むことといたしました。

そこで、長生地域においては、「千葉県農林水産業振興計画」の内容を踏まえながら、地域農林業を取り巻く現状や課題を加味し、平成30年度からの4か年を対象期間とした新たな「長生地域農林業振興方針」を作成いたしました。

平成32年には、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催され、一宮町がサーフィン会場となります。

これを好機ととらえ、長生地域の多彩な魅力を活用し、生産者をはじめ地域住民の方々や市町村、関係団体等の御理解をいただきながら、生産者の所得向上を推進して、活力ある長生地域農林業の振興を図ってまいります。

平成30年2月

千葉県長生農業事務所  
所長 小倉 千生